



# 協働除雪の取り組み

## ～地域の絆で広げる除雪の輪～



冬を乗り越えるために欠かせない除雪。市は一定の積雪があったときや予想されるときなどに、市道の通行に支障を及ぼさないよう除雪作業を実施します。市の除雪基準については、表のとおりです。近年では、短時間に多くの降雪に見舞われることも増え、市の除雪作業が追いつかない事態が発生しています。

そんな中、地域の特色を生かし「自分たちでできること」として除雪に取り組んでいる地域があります。本号では、そんな「協働除雪」に取り組んでいる主な地域を紹介します。

表 市の除雪基準について

作業種類	出動基準
新雪除雪 (初期除雪)	次のいずれかに該当 ①第1主要路線【注】において、降雪量がおおむね5cmを超え、10cm程度の降雪が予想され、降雪後の天候による融雪が期待できないと判断したとき。原則として交互通行できる幅を確保する。 ②第2主要路線【注】において、降雪量がおおむね10cmを超えるか、超えると予想され、降雪後の天候による融雪が期待できないと判断したとき。原則として交互通行できる幅を確保する。 ③主要路線以外は、積雪により通行に支障があると判断したとき。除雪幅は最低1車線以上を確保する。 ④出動基準に満たない降雪日が連続し、通行に支障があるか、支障になると予想されるとき。 ⑤強風などにより、路面に吹きだまりが発生し、通行に支障があるとき。
路面整正	わだちの発生により通行に支障があるか、気温の上昇に伴う融雪により通行に支障があるとき。
拡幅除雪	路肩への堆雪により、通行に支障があるか、支障になると予想されるとき。
排雪除雪	第1主要路線において、大型車両の交互通行に支障があるか、歩行者の安全な通行に支障があるとき。
その他	除雪が必要と市が判断したとき。

【注】主要路線は、市HPで確認できます



## 🔑 国分自治会 🔑

### ●取り組みのきっかけ

市の除雪だけでは通学路の確保などができず、生活に支障があった。発足当時は市から小型除雪機1台を借用し対応していたが、世帯数が増え、現在は計3台で対応している。地域ボランティア「除雪し隊」を結成し活動が始まった。

### ●内容

主な目的は学生の通学路確保。シーズン初めに安全講習などを行った上で開始。団地内のバス通り歩道の除排雪を実施している。市から軽ダンプを借り、歩道の山になった雪の排雪を行っている。積雪状況に合わせて地域内生活道路の除雪と排雪場となる公園の整備、除雪困難者への支援など多岐にわたっている。

### ●どのような効果があったか

各世帯で公園まで雪を運ぶことで道路への雪出しが減った。生活道路の除雪を行うことで、緊急車両やデイサービス送迎車両などの通行が楽になっている。「お互いさま」の気持ちや「ありがとう」の感謝の気持ちが芽生えた。

### ●継続の秘訣と課題

隊員のボランティア精神や「地域の皆さんのために」という地域愛が秘訣。しかし、退職後に地元の除雪を支えてきた世代にも高齢化の波が押し寄せ、平日の昼に活動できる人が減っている。そのため現状維持が難しくなっている。

## 🔑 上の山自治会 🔑

### ●取り組みのきっかけ

「自宅前を除雪した後に市の除雪車が圧雪を寄せていく」との不満があった。ある時、重機の運転資格を持つ住民が、団地公園に駐車する除雪業者の重機を見て「この重機を自分たちで除雪作業に使えないか」と考え、共感する住民が実現に向け行動を起こし、国土交通省の補助事業でスタートしたことがきっかけ。

### ●内容

住民ボランティア「まごころ除雪隊」を組織し、市提供の軽ダンプとホイールローダなどを活用し除排雪を行っている。平成29年からは住民からの除雪協力費で自律的に運営。市補助事業によるオペレーター養成など「三者協働」の体制となっている。

### ●どのような効果があったか

活動を継続する中で、雪が固くなる前に初期除雪を行うことが除雪の質を高めるということが分かった。高齢化する住民も歩きやすく、住民からの活動への理解と協力が生まれている。

### ●継続の秘訣と課題

除雪隊の活動は「私たちの地域の相互扶助」という認識を広げ、継続することが地域コミュニティの形成を支えている。10年を超えて継続する「住民協働」の具体像の一つとなっているが、高齢化や雇用延長などの社会環境の変化とともに、従来の活動を続けることが難しくなり「三者協働」の在り方に再検討が求められている。

## 🔑 あすみ野自治会 🔑

### ●取り組みのきっかけ

住民が朝に自宅前を除雪した後に市の除雪により寄せ雪ができることで苦情が多く、トラブルになることもあった。そのため「自分たちでやろう」と発起し、当時、自治会から3人が除雪機械を動かすための資格をとり、ボランティアを結成した。

### ●内容

毎年10月に開催する地域住民対象のワークショップにて「自宅前の雪は各自、自分たちで除雪しよう」と共有しており、公園への排雪は除雪ボランティアで行っている。1～2月は中学生ボランティア「スノーバスター」も加わり活動。また、雪が降る前に市から融雪剤をもらい、地域の各部長とグループ長が団地内全てのゴミステーションにシャベルとともに設置している。利用者が融雪剤をまくことができるよう工夫することで、日影になって凍った道で転倒し怪我をするのを防いでいる。

### ●どのような効果があったか

住民の中で「市に任せておけばいい」という意識が、9年間で少しずつ変わってきている。しかし「まだまだ」。もっと広まっていければと思っている。

### ●継続の秘訣と課題

重要なのはリーダーがどのようにして地域を引っ張っていくかである。現状は、平日に活動できる人は会長とあと1人のみ。どのようにして後継者を確保するかが課題である。

### ●住民協働除雪・除雪用資機材貸与について

市では地域による協働除雪を推進しており、市内各地で活動が進められていきます。その支援として従来から除雪用資機材などの貸与を実施しています。

貸与には一定の条件があり申請などが必要になるため、貸与を希望する場合は事前に担当課まで相談してください。その他必要な除雪用資機材などについても、担当課まで相談してください。

【対象】自治会、PTA、ボランティア団体など

【貸与できる資機材】除雪作業車（ホイールローダ）、

ハンドガイド式小型除雪機、軽ダンプ、スノーポール、防雪ネット、融雪剤、滑り止め用砂など

### ●安心して暮らせる地域へ

紹介した自治会の活動は参考になりますが、地域の特色や人の構成はさまざまです。大切なのは「自分たちに合ったやり方」を見つけることです。話し合いを重ねながら一人一人が自分にできることを少しずつ実践することで、除雪の負担を軽くし、地域のつながりの持続にもつながります。「市民」地域「行政」それぞれができることを探し、みんなが安心して暮らせる地域にしていきたいでしょう。

●問い合わせ／道路課（☎656・6548、6549）